

1. 事業報告

FUNTEC フォーラムを開催しました。

2017年2月2日(木)14:00~18:00に、福井商工会議所にて『FUNTEC フォーラム』を開催しました。FUNTEC フォーラムは福井大学と福井県内の産業界の技術交流や共同研究を促すことを目的として開催され、今年度で第26回目となります。今年、第1部(14時~14時50分)にシーズ発表会(ポスター展示)を行い、第2部にFUNTEC フォーラム全体会議を行いました。

シーズ発表会では、研究者とご来賓による活発な意見交換がみられました。FUNTEC フォーラム全体会議では、最初に米沢晋本部長による本学産学官連携本部の活動紹介を行いました。地域で必要とされる大学であり、地域産業に貢献できる場や人材育成をしていくための活動内容を紹介しております。また、産学官連携本部・URA オフィス・研究推進課が一体となった産学官連携本部の新体制についても説明いたしました。

次に、高江茂氏(NEC ソリューションイノベータ株式会社 北陸支社 上級プロフェッショナル)より、「サイバーセキュリティの現状とIoT」と題して、サイバー攻撃の歴史や内容について、ご講演いただきました。会社の中のサイバー攻撃対策チームやNEC グループの中でのサイバー攻撃対策を強める取り組みなどもお話していただいております。「東京オリンピックでは、日本でも(特に地方で)サイバー攻撃がとて多くなるので、セキュリティをしっかりとすることが大切である。」「会社の中でサイバー攻撃対策チームをつくるべきである。」といったことを強く述べられていました。

その後、寺崎智宏氏(文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 地域支援企画官)より「平成29年度文部科学省の地域科学技術政策概要」についてご講演いただきました。続いて吉野潤氏(経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部長)より「イノベーション創出に向けて」と題してご講演いただきました。日本の基礎研究

力の低下や経済成長が他の国に比べて遅れていることについて問題点を指摘され、その解決策としてオープンイノベーションを推進していくことをお話されました。また、長時間労働の見直しをし、ワークライフバランスを考えてほしいと述べられました。

最後に交流パーティーを開催し、大学関係者と地域企業様の交流を行いました。



(FUNTEC フォーラムの様子)

2. 事業報告

トップ懇談会を実施しました

2017年3月6日(月)、福井大学 総合研究棟13階にて『第17回福井大学とのトップ懇談会』を実施しました。

トップ懇談会は福井大学産学官連携本部協力会企業のトップの方々と、本学眞弓学長をはじめ、役員、各部を担当する教員が集い、福井県を中心とした産業界と福井大学が今後の産学官連携について意見交換を行うことを目的として開催しております。今年度で17回目を迎えました。今年度の懇談会は、企業47名、大学31名、機関等8名の計86名が参加しました。

今年度は、例年と趣向を変え、より多くのご意見をいただくことと、議論を少しでも実りのあるものにするために、出席者が4つのグループに分かれて、意見交換を行いました。グループ懇談では、産学官連携活動と地域の活性化、福井大学に

望むことなどをテーマに意見が交わされ、「大学の研究への参画するハードルが高い」「企業のニーズに対して、大学はマーケティングの観点が不足している」などの意見が出されています。

眞弓学長は懇談の内容を受けて、「大学が外から見られていることも、もっと意識していくこと」「大学のシーズだけではなく、社会のニーズに合致した研究が必要」などの返答をいたしました。



(トップ懇談会の様子)

3. 事業報告

ふくい知財フォーラムを開催しました。

2017年3月13日(月)に、福井大学 総合研究棟13階にて『第7回ふくい知財フォーラム』を開催しました。ふくい知財フォーラムは福井県内の大学・高専や試験研究機関と企業との知的財産を通じた産学官連携により、地域の知的財産の融合、複合化を推進し、技術移転の促進、地域知財の高度化・活性化を図ることを目的として開催し、今年度で7回目を迎えています。

今年度は、各機関の知財活用活動と許諾可能公開特許・シーズ、支援活動の紹介、ならびに2つの講演を行いました。他にも、パネル展示やクリッカーを用いた参加型のワークも行いました。

各機関の知財活用活動と許諾可能公開特許・シーズ、支援活動のご紹介では、来場者に各機関の知財について、知っていただきました。

次に、「コーディネート支援活動“出張キャラバン隊”を軸にした産学連携知財交流会事業について」と題して酒井賢二氏(公益財団法人川崎市産業振興財団 新産業振興課 課長補佐)にご講演いただきました。川崎市産業振興財団は、産業交流の機会を創出し、市内産業の活性化をしていくた

めに、現場主義を大事にしており、現場主義の大切さを述べられていました。

ご講演の後、福井県内の各公設機関、大学高専などの研究内容、知財支援活動のパネル展示コーナーで、活発な議論が行われました。

その後、「地域連携による知的財産の権利化・活用事例 ～医療現場のニーズから～」と題して、宮田敦久氏(新潟大学 地域創世推進機構 知的財産部門長 新潟大学大学院 技術経営研究科 教授・弁理士)にご講演いただきました。カテーテル固定の補助器具の開発のアイデアを特許権や意匠権等のどの知的財産権で保護したかをお話されました。知的財産権に関して、よく特許権に注目がいくが、他の知的財産権にも注目してほしいとおっしゃっていました。ご講演後、クリッカーを用いて、来場者にアンケートを取っております。これまでの知財活用活動のことや知財交流会に必要なことをお伺いし、情報を共有しました。

本フォーラムは、各公設機関や大学高専等の知財支援活動や知財活用活動について、より深く知ることができる会となりました。



(フォーラムの様子)

(今後の予定)

4月11日(火) 実践道場「企業戦略概論」開講

4月14日(金) 実践道場「知的財産—特許コース特論」開講

※実践道場科目は、4月～7月にかけて実施する、90分×15コマの授業です。福井大学産学官連携本部協力会企業の社会人の方も、お申し込みの上、受講可能です。(協力会企業在籍者は受講料無料)

(平成29年4月1日発行)